

芸術系科目の教育に関する資料

小・中・高等学校芸術系科目の目標

高等学校

【芸術科(音楽Ⅲ)】2単位

【芸術科(音楽Ⅱ)】2単位

【芸術科(音楽Ⅰ)】※

(目標)

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

(標準単位数)2単位

【芸術科(美術Ⅲ)】2単位

【芸術科(美術Ⅱ)】2単位

【芸術科(美術Ⅰ)】※

(目標)

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

(標準単位数)2単位

【芸術科(工芸Ⅲ)】2単位

【芸術科(工芸Ⅱ)】2単位

【芸術科(工芸Ⅰ)】※

(目標)

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

(標準単位数)2単位

【芸術科(書道Ⅲ)】2単位

【芸術科(書道Ⅱ)】2単位

【芸術科(書道Ⅰ)】※

(目標)

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

(標準単位数)2単位

※Ⅰを付した科目のうち、1科目を共通必修科目とする。

中学校

【音楽科】

(目標)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

(標準授業時数)

第1学年45単位時間、第2・3学年35単位時間

【美術科】

(目標)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

(標準授業時数)

第1学年45単位時間、第2・3学年35単位時間

※1単位時間は50分。

小学校

【音楽科】

(目標)

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

(標準授業時数)

第5・6学年各50単位時間

第3・4学年各60単位時間

第1学年68単位時間、第2学年70単位時間

【図画工作科】

(目標)

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

(標準授業時数)

第5・6学年各50単位時間

第3・4学年各60単位時間

第1学年68単位時間、第2学年70単位時間

※1単位時間は45分。

音楽科

【内容構成の改善】

- 従前のように「A表現」「B鑑賞」の2領域で構成しつつ、〔共通事項〕を新設。
 - ・「A表現」の内容を、歌唱、器楽、音楽づくりの3分野で示した。

【〔共通事項〕の新設】

- 表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示した。

【歌唱共通教材の充実】

- 取り扱う楽曲数を各学年とも増加。

【音楽づくりの内容の改善】

- 音の面白さに気付いたり、音楽づくりの様々な発想をもったりすることを重視するなど改善を図った。

【鑑賞教材における我が国の音楽の充実】

- これまで第5・6学年に位置付けていた我が国の音楽を、第3・4学年にも新たに位置付けた。

【言語活動の充実】

- 「B鑑賞」の各学年の内容に、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付けた。

図画工作科

【目標の改善】

- 教科の目標に「感性を働かせながら」を加えた。

【内容構成の改善】

- 従前のように「A表現」「B鑑賞」の2領域で構成しつつ、〔共通事項〕を新設。
 - ・「A表現」の内容を、発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理。「B鑑賞」を、鑑賞の能力や言語活動の観点から整理。

【〔共通事項〕の新設】

- 表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示した。

【言語活動の充実】

- 「B鑑賞」の各学年の内容に、「話したり、聞いたりする」「話し合ったりする」などの活動を位置付けた。

【材料や用具の取扱いや鑑賞指導における美術館等との連携】

- 「内容の取扱い」に、各学年で取り扱う材料や用具を、指導の配慮事項とともに示した。
- 「B鑑賞」については、児童や学校の実態に応じて、美術館などを利用したり、連携を図ったりすることなどに配慮することを示した。

現行学習指導要領における中学校 音楽科、美術科の改善等

音楽科

【目標の改善】

○教科の目標に「音楽文化について理解を深め」を加えた。

【内容構成の改善】

○従前のように「A表現」「B鑑賞」の2領域で構成しつつ、〔共通事項〕を新設。
・「A表現」の内容を、歌唱、器楽、創作の3分野で示した。

【〔共通事項〕の新設】

○表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示した。

【歌唱共通教材の提示】

○我が国の自然、文化、日本語のもつ美しさなどを味わうことができる歌曲を、歌唱共通教材として更に取り上げた。

【創作の指導内容の焦点化・明確化】

○創作の指導内容の焦点を絞り、具体的かつ明確にした。

【我が国の伝統文化に関する学習の充実】

○伝統的な歌唱を歌唱教材選択の観点として新たに示した。
○器楽の指導において和楽器を用いる趣旨を明らかにした。

【言語活動の充実】

○「B鑑賞」の各学年の内容に、言葉で説明する、根拠をもって批評する活動を位置付けた。

美術科

【目標の改善】

○教科の目標に「美術文化についての理解を深め」を加えた。

【内容構成の改善】

○これまでのように「A表現」「B鑑賞」の2領域で構成しつつ、〔共通事項〕を新設。
・「A表現」の内容を、発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理。「B鑑賞」を、鑑賞の能力や言語活動の観点から整理。

【〔共通事項〕の新設】

○表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示した。

【美術文化に関する学習の充実】

○我が国の美術についての学習を重視するとともに、3年間で系統的に学習の充実が図られるようにした。

【言語活動の充実】

○「B鑑賞」において、説明し合ったり、批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにした。

【表現形式などの取扱い】

○スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒が表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示した。

芸術科（音楽、美術、工芸、書道）

【目標の改善】

- 教科の目標に「芸術文化について理解を深め」を加えた。
- 音楽、美術、工芸、書道に関する各科目についても、文化の理解に関する目標を示した。
- 生涯学習社会の一層の進展に対応するため、音楽、美術、工芸、書道のⅠ及びⅡを付した科目の目標にも、「生涯にわたり」を加え、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てることを明確にした。

【我が国の伝統文化に関する学習の充実】

- 例えば、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器の指導を重視したり、我が国の美術文化、工芸や書の伝統と文化に関する鑑賞指導を充実したりするなど、我が国の伝統的な芸術文化の扱いを一層重視した。

【言語活動の充実】

- 音楽では、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動、美術、工芸、書道では、作品について互いに批評し合う活動を鑑賞指導に取り入れるようにし、言語活動の充実を図った。

【知的財産権等に関する内容の取扱い】

- 知的財産権等について配慮し、著作物等を尊重する態度の育成を図ることを内容の取扱いに明記した。

現行学習指導要領における内容構成の例（小学校 第1学年及び第2学年）

音楽科

A 表現	<p>(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。 イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。 ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。 エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 <p>(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。 イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。 ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 <p>(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。 イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。 <p>(4) 表現教材は次に示すものを取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲 イ 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲 ウ 共通教材〔第1学年〕「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」〔第2学年〕「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「タやけこやけ」
B 鑑賞	<p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。 <p>(2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲 イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲 ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲
〔共通事項〕	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素 (イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

図画工作科

<p>A 表現</p>	<p>(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。 イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。 ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。 <p>(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつかって楽しんだりしながら表すこと。 ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。
<p>B 鑑賞</p>	<p>(1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。 イ 感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。
<p>〔共通事項〕</p>	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

現行学習指導要領における内容構成の例（中学校音楽科 第1学年）

音楽科

A 表現	<p>(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。</p> <p>イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。</p> <p>ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。</p>
	<p>(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。</p> <p>イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。</p> <p>ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。</p>
	<p>(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。</p> <p>イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。</p>
	<p>(4) 表現教材は、次に示すものを取り扱う。</p> <p>ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。</p> <p>イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。</p> <p>（ア）我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの</p> <p>（イ）民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの</p>
B 鑑賞	<p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。</p> <p>イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。</p> <p>ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。</p>
	<p>(2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。</p>
〔共通事項〕	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、鑑賞すること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。</p>

美術科

<p>A 表現</p>	<p>(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。</p> <p>イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。</p> <p>イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。</p>
<p>B 鑑賞</p>	<p>(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。</p> <p>イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。</p>
<p>〔共通事項〕</p>	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。</p> <p>イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。</p>

現行学習指導要領における内容構成の例（高等学校）

音楽Ⅰ

A 表現	(1) 歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。 イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。
	(2) 器楽 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること。 イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。
	(3) 創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。 イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。
B 鑑賞	ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。 エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

美術 I

A 表現	<p>(1) 絵画・彫刻</p> <p>ア 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。</p> <p>イ 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。</p> <p>エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現すること。</p>
	<p>(2) デザイン</p> <p>ア 目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成すること。</p> <p>イ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。</p> <p>エ 表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現すること。</p>
	<p>(3) 映像メディア表現</p> <p>ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。</p> <p>イ 色光、視点、動きなどの映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。</p> <p>エ 表現方法や編集を工夫して表現すること。</p>
B 鑑賞	<p>ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。</p> <p>イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、理解すること。</p> <p>ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めること。</p> <p>エ 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深めること。</p>

工芸 I

<p>A 表現</p>	<p>(1) 身近な生活と工芸 ア 自然や素材, 身近な生活や自己の思いなどから心豊かな発想をすること。 イ 用途と美しさの調和を考え, 日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。 ウ 制作方法を理解し, 意図に応じて材料や用具を活用すること。 エ 手順や技法などを吟味し, 創意工夫して制作すること。</p> <p>(2) 社会と工芸 ア 社会的な視点に立って, 使う人の願いや心情, 生活環境などを考え, 心豊かな発想をすること。 イ 使用する人や場などに求められる機能と美しさを考え, 制作の構想を練ること。 ウ 制作方法を理解し, 意図に応じて材料や用具を活用すること。 エ 手順や技法などを吟味し, 創意工夫して制作すること。</p>
<p>B 鑑賞</p>	<p>ア 工芸作品などのよさや美しさ, 作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り, 理解を深めること。 イ 制作過程における工夫や素材の生かし方, 技法などを理解すること。 ウ 自然と工芸とのかかわり, 生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え, 理解を深めること。 エ 日本の工芸の特質や美意識に気づき, 工芸の伝統と文化について理解を深めること。</p>

書道 I

<p>A 表現</p>	<p>(1) 漢字仮名交じりの書 ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。 イ 漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得すること。 ウ 字形、文字の大きさと全体の構成を工夫すること。 エ 名筆を生かした表現を理解し、工夫すること。 オ 目的や用途に即した形式、意図に基づく表現を工夫すること。</p> <p>(2) 漢字の書 ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。 イ 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得すること。 ウ 字形の構成を理解し、全体の構成を工夫すること。 エ 意図に基づく表現を構想し、工夫すること。</p> <p>(3) 仮名の書 ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。 イ 古典に基づく基本的な線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得すること。 ウ 単体、連綿の技法を習得し、全体の構成を工夫すること。 エ 意図に基づく表現を構想し、工夫すること。</p>
<p>B 鑑賞</p>	<p>ア 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解すること。 イ 見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ること。 ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。 エ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること。</p>

(参考) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について (報告)

幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿 (参考例)

(イ) 健康な心と体

- (例)・体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたりして、主体的に取り組む。
- ・いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
 - ・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にすることを大切にする気持ちをもつ。
 - ・衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気付き、自分でする。
 - ・集団での生活の流れなどを予測して、準備や片付けも含め、自分たちの活動に、見通しをもって取り組む。

(ロ) 自立心

- (例)・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。
- ・自分のことは自分で言い、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。
 - ・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。

(ハ) 協同性

- (例)・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。
 - ・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
 - ・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

(ニ) 道徳性の芽生え

- (例)・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。
- ・友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。
 - ・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。

(ホ) 規範意識の芽生え

- (例)・クラスのみなどと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しくするためのきまりがあることが分かり、守ろうとする。
- ・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。
 - ・友達と折り合いをつけ、自分の気持ちを調整する。

(ヘ) いろいろな人とのかかわり

- (例)・小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちを持って接する。
- ・親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ。
 - ・関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
 - ・四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみを感じる。

(ト) 思考力の芽生え

- (例)・物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。
- ・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使う。

(チ) 自然とのかかわり

- (例)・自然に出会い、感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じ、畏敬の念をもつ。
- ・水や氷、日向や日陰など、同じものでも季節により変化することを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
 - ・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする。

(リ) 生命尊重、公共心等

- (例)・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気付き、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。
- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
 - ・公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場であることが分かる。
 - ・様々な行事を通じて国旗に親しむ。

(ヌ) 数量・図形、文字等への関心・感覚

- (例)・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。
- ・文字や様々な標識が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気付き、読んだり、書いたり、使ったりする。

(ル) 言葉による伝え合い

- 例)・相手の話の内容を注意して聞いて分かたり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
 - ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

(ヲ) 豊かな感性と表現

- (例)・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
- ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。
 - ・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。